

館報 教育記念館

No. 92
平成31年3月 発行

第49回 富山県造形教育作品展



第36回 特別支援学校 みんながんばってます 作品展

主な内容

- ◎教育時評 「富山県教育史から見えてくるもの ～教育博物館として～」
富山県教育記念館 学芸員 布村 徹 2
- ◎後期恒例展から 4
 - 「特別支援学校・みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」
 - 「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」「富山県中学校美術展」
 - 「アイデアロボットフェスタ」「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」
- ◎わが校の歴史から 6
 - ★魚津市立住吉小学校
 - ★魚津市立上中島小学校
 - ★魚津市立松倉小学校
 - ★立山町立日中上野小学校
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 8
平成31度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 印刷所／いおざき印刷株式会社



富山県教育史から見えてくるもの～教育博物館として～

富山県教育記念館

学芸員 布村 徹

はじめに

富山県は「教育県」といわれて久しい。何を以てこう言うのか、その根拠は多々あるが、本質は県民性に帰着すると思う。県民性の代表は、「先見性」と「進取の気性」であり、さらに「堪え忍ぶ力」と「諦めない心」があるといえる。この4つの県民性が県民の手による「人づくり」をリードして今日の教育県を形成してきたと思う。

1 富山の風土

県民性を生み出してきた土台は風土にある。東に3,000m級の山脈、南は1,500m前後の山並みが重なる。そのため、年間降水量は全国屈指で年平均相対湿度は全国1位である。河川は急流で複合扇状地を形成し、豊かな水と肥沃な土をもたらす反面、洪水等厳しい試練をもたらしてきた。豊かな実りの光景と荒涼とした光景を繰り返し映し出してきた。冬期間は積雪に閉ざされ、農業は古くから水田単作*であった。

〈*現在でも水田率は全国1位の95.7%(平成27年)〉

こうした自然現象を少しでも克服するため「先見性」と「進取の気性」が身につく、「堪え忍ぶ力」と「諦めない心」を育んできた。そして、このような自然の厳しさの中で生き抜いていく知恵を習得するために「人づくり」は欠かせなかった。ここに教育県となっていく原動力の1つがあったといえよう。

2 産業での努力

県民性を示す代表的なこととしては電気に注目し、水力発電に着手したことがあげられる。県内は水禍に度々見舞われていることから、^{みつたこうきち}密田孝吉や^{かなおかまたざえもん}初代金岡又左衛門*¹は、水のエネルギーを資源に転換しようと水力発電事業を起し、県内初の水力発電所である大久保発電所を設置した。この事業は、電気の万能性を見抜いた結果であり、まさに先見性と進取の気性のあらわれといえる。さらに明治後半から大正にかけて繰り返した戦争を通して時局を読み解き、電力の将来性から、^{やまだしやうさく}山田昌作とともに当時としては超大出力の庵谷第二発電所を建設し、格安の電力供給を可能にした。地元出身の実業家^{あさのぞういちろう}浅野総一郎を動かし、整備された伏木港を中心に企業進出を加速させ、着々と工業化*²が進められていった。大正後半には農業県から工業県に変わり農工一体化が進んでいく。加えて県営水力発電事業が展開され、昭和に入ると富山は水力発電により電力王国となった。豊かな電力により紡績企業が相次いで進出*³し、紡績時代を迎えた。また県営愛本発電所により電力供給力を高め、アルミ産業*⁴が定着・発展する等、今日の工業県富山を築き上げた。

農業でも先見性を発揮し、品種の将来性を見抜き、地道に研究を重ねて大きく貢献した。^{いしぐろいじろう}石黒岩次郎（銀坊主を発見し、今日の多くの水稲品種に遺伝子を残す）、^{はちろうせい}鉢蠟清香（水稲農林

*1；金岡又左衛門は質素な生活を常とし、蓄えた資金で百名以上の若き学生に奨学金を給与し、育ててきた。

*2；電気製鉄・北海電化・北海曹達・北海工業 *3；呉羽紡績（呉羽・井波・庄川・入善）・天満織物・日清紡績富山・日本繊維・泊紡績・日本ベルツウエスラー絹絲 *4；日満アルミから始まった。

1号を生み出し、戦後の農村再建の礎となった)、
稲塚権次郎^{いなづかごんじろう} (生み出した小麦農林10号が世界の食糧難を救い、緑の革命となった)、^{すぎたにふみゆき}杉谷文之 (多収量の追求から美味しい質の追求の時代が必ず来ると予見し、コシヒカリの弱点を栽培技術で改善し自立させた)らが農業を支えた。

3 人を育てる

県民性を教育面で見てみよう。先見性、進取の気性、堪え忍ぶ力、諦めない心を土台に人材育成を進め、富山県の近代化を支えてきた。それは、人づくりのための県民の惜しみない支援という形で現れ、民間の力で設置された教育機関が多々ある。

日本三大寺子屋とされる小西屋^{こにしありよし}は明治32年まで130年も続き、小西有義らにより運営された。富山県中学校は県民の幅広い厚志と敷地提供で明治18年にいち早く開校した。富山大学薬学部の前身である共立富山薬学校は、明治27年、配置薬業者らの出資により設立された。近代農業を支える人材を多く輩出した

富山県簡易農学校は島^{しま}蔵^いの遺言と建設資金の寄附で同27年に開校した。大正5年には安田^{やすだ}善次郎^{ぜんじろう}の寄附を基に富山市立富山工業学校が開校した。子ども達に学びの機会を与えようと馬場^{ばば}はるが巨額の寄附をして同13年に富山県立富山高等学校(旧制)が開校し、八尾町立八尾女子技芸学校も同じ理由で井^い登^{とう}つるの寄附により同11年に開校した。また富山県の障害者教育の嚆矢となった私立富山訓盲院^{なみきぶんえもん}は明治40年に篤志家の並木文右衛門が開校した。働く青年に学びの機会をと夜間中学(のちの定時制教育)として昭和4年に私立富山県教育会が私立富山中等夜学校を設立した。戦後では、昭和37年に鉄鋼王^{おたによねたろう}大谷米太郎^{たけじろう}・竹次郎兄弟の尽力で当時最先端の学科をもつ県立大谷技術短期大学が開校した。このように多くの学校が県民の力により開校した。富山県の人づくりを支えたのも先見性と進取の気性が高い県民の力であったと見ることができる。これからも県民性が存分に発揮されてこそ富山県がしっかり築かれていくと思う。



初の水力発電所 大久保発電所
(左後ろは大久保用水からの水圧鉄管)



今も残る旧庵谷発電所の遺構
(神通川寺津橋西詰め)



稲塚権次郎の紹介板・中央奥は生家跡
(南砺市西明〈旧城端町〉)



明治36年建設の富山県立農学校本館
(「巖浄閣」〈国指定重要文化財〉)



旧制富山県立富山高等学校の校門の遺構
(富山市蓮町・馬場記念公園)



八尾女子技芸学校の校舎
(『七十年のあゆみ』八尾高等学校)

第36回 特別支援学校 みんながんばってます作品展

10月26日(金)～11月11日(日)

県内の特別支援学校に通う皆さんの作品約270点が一堂に会しました。日頃の学習を通して制作された感性豊かな作品が来場者を楽しませてくれました。



第49回 富山県

幼稚園・保育園・小学校・中学
の年代の個性あふれる作品約280点
までの作品が一堂に会する作品展で



第34回 富山県教職員厚生会 退職厚生部富山支部会員作品展

10月12日(金)～10月21日(日)

教員の退職後の生きがいのために毎年開催しています。
今年は書画・写真・工芸・手芸など103点の力作を展示しました。



第14回 アイデア

中高生、高専生が製作したロボッ
ンジデーでは、参加者は(株)村田製作
各校のデモンストレーションに夢中



巨 例 展

造形教育作品展

11月17日(土)～12月2日(日)

県立・高等学校83校から、それぞれ
作品が集まりました。0歳児から18歳
まででした。



第29回 富山県中学校美術展

1月25日(金)～2月10日(日)

県内すべての国公立80校の生徒による創造性豊かな平面・立体作
品202点を展示しました。

豊かな感性にあふれた秀作が集まり会場が華やぎました。



アロボットフェスタ

12月8日(土)～1月20日(日)

ロボットを一堂に展示しました。チャレ
ンジャー所広報部の吉川浩一さんの講演や、
中になりました。



第12回 富山県版造形教育作品展 秀作回顧展

2月20日(水)～3月24日(日)

平成8年から平成11年までの秀作版画約140点を展示しています。
様々な技法をこらした、小中学生の作品が観る人に迫ってくるよう
です。



魚津市立住吉小学校



住吉の輝きを星の杜へ

本校は、明治6年、恩斉小学校と清流小学校として創立しました。明治7年に慶雲小学校に統合し、その後、幾度も校名や位置を変え、昭和29年に現在の校地に移り、名称も住吉小学校となりました。

本校の校庭に、樹齢150年以上の「ひいらぎ」の木があります。この木は、明治の慶雲小学校の校庭にありました。幾度の校舎の移転が行われましたが、この「ひいらぎ」の木は、その度に新しい校庭に移植され、そして、今の住吉小学校の校庭にあるのです。「ひいらぎ」の木は、ずっと住吉の子供たちを見守ってきています。

本校は、地域とのつながりが深く、毎年、地域の高齢者と昔の遊びなどを通して触れ合う「フレンド集会」を行っています。子供たちは、あや取りなどの昔の遊びや縄跳びを教えてもらいながら楽しく交流を深めています。たくさん的高齢者にご協力いただいている住吉の自慢できる活動です。

閉校の年となる本年度、住吉小学校の伝統をより一層輝かせようという思いから、企画委員会の子供たちが中心となって、児童会スローガンを作りました。このスローガンを合い言葉に、子供たちは、学校行事や縦割り班活動、委員会活動などに取り組んでくれました。最後となる運動会では、一生懸命競技や応援をする姿、市小学校音楽会では、心に伝わる歌声がありました。縦割り班活動のサツマイモほりや秋の遠足では、楽しそうな笑顔と低学年の子供たちを気遣う姿がありました。輝く子供たちの姿をたくさん見る事ができました。

この子供たちの素晴らしさは、「住吉小学校の伝統」として、星の杜小学校へ繋いでいけることでしょう。

魚津市立上中島小学校



ふるさととともに

本校は、明治10年に早月小学校として創校されて以来、通学区域の変更や校舎の移転、校名の変更を重ねながら、昭和27年の魚津市制施行に伴って現在の校名になりました。142年間に渡って地域文化の拠点としての役割を果たし、時代の要請に応えつつ、数多くの人材を輩出してきた本校も閉校の時を迎えています。

すくすくと育って欲しいという地域の願いに応えるべく、立山連峰に見守られながら、早月川のせせらぎと豊かな緑につつまれた自然を生かして教育活動を展開してきました。文部省や小教研の道徳研究指定、保健・体育活動の充実、縦割り班によるグリーン活動や異学年交流、米作りを核とした世代交流事業などに積極的に取り組んできました。これらの活動は、「学童是我子」という地域の温かい眼差しと団結力のある保護者に支えられてきたものです。その成果は学習や保健分野での数々の表彰という形になって表れています。そして何よりも、素直で、元気いっぱい活動する子供たちの姿に表れていると思います。

会議室の棚には、昭和24年の発刊から今日まで続く文集『桜窓』が並んでいます。子供たちの思いが輝く、文字通り『窓に映し出された心のアルバム』として続いてきたものです。そこには、子供たちの喜びや感動、満足感、希望、そして家族や友達、地域への感謝の心が表わされています。この心こそが本校が実践してきた教育活動の成果であり、伝統と文化を物語る大切な宝物なのだと思います。

本校の歴史はこれで閉じられ、4月からは「星の杜小学校」として新たな歩みを始めます。上中島小学校の歴史と伝統と誇りが、そして「ふるさと上中島」が、新たな一歩を踏み出し、成長していく子供たちの発展と活躍につながっていくことを心から願います。

魚津市立松倉小学校



地域に育まれて

本校は、明治6年に「観由小学校」「節制小学校」「稗畠小学校」が設置され、145年の歴史が始まりました。分教場や分校、組合立白倉小学校などと統合を繰り返したのち、平成24年の松倉小学校と坪野小学校の統合により、現在の松倉小学校が設置されました。

松倉小学校には、1年生から3年生が人形劇に取り組み、4年生から6年生が獅子舞に取り組んできている。人形劇は、せりふや語りをを行う1、2年生、人形を操作する3年生と学年毎に難しい役割を担っています。獅子舞は、一人一人が自分の役割に誇りをもち、よりよいものにしようとして一生懸命練習してきています。互いに気付いたことを教え合うスタイルが定着し、教わる方も教える方も真剣な姿は、松倉っ子の特徴です。

親子と一緒に汗を流し合う下草刈りや資源回収や三世代の交流活動、一人暮らし老人宅訪問、児童は同年代だけの交流だけでは学ぶことのできない異年齢の方々とのかわりが、思いやりややさしさを育み、人としての成長を促進しています。松倉っ子は、まさに地域で育てられています。

縦割り班活動や委員会活動、集会活動では、リーダーとして低学年の児童の世話をしたり、全校児童や地区の皆さんの前で意見を発表したりと、多くの活躍する場があります。児童が物怖じせず意見を発表する姿を見ると、これらの体験を通して、自信を育んでいるものと思います。

松倉小学校の歴史はこれで閉じられますが、松倉地区で培われた松倉の教育は未永く皆さんの心に引き継がれます。松倉地区の皆様や松倉小学校の関係の方々、そして大きな夢を抱いて羽ばたいていく松倉っ子の発展と幸せを願います。

長い歴史に幕・休校 「高野小学校」と統合

立山町立日中上野小学校



「ふるさと」を心の支えに

本校は、明治17年3月、日中上野村の民家を借用し現在の校名と同じ「日中上野小学校」として創立し、同年8月に校舎新築、11月に「明倫小学校」と改称、その後、幾度となく増改築、改称を経て、現在に至っています。校舎は高台に位置し、立山連峰や富山湾を眺めることができます。平成14年4月には谷口小学校と統合したことで、校区は広範囲になり、2年生が生活科で、ラ・フランス農家や畜産農家を見学したり、和紙作りを体験したりするなど、歴史や文化、自然、産業等、学習する材にとっても恵まれています。

地域とのつながりも深く、毎年、日中上野地区、東谷地区の敬老会や公民館行事に積極的に参加しています。3・4年生は、総合的な学習の時間に福祉施設と交流をしています。また、学校近くの農家に田を借り、全校で米作りを行ってきました。田植えや稲刈りには、地域の方や保護者等、たくさんの方々に協力いただいています。11月下旬には、お世話になった方々を学校に招待し、「収穫感謝の集い」を毎年行っています。収穫した米を炊き、学校の農園で収穫したサツマイモを食材に野菜汁を作るなど5・6年生が調理し、みんなで一緒に昼食をとります。このように地域学習や地域との交流で、地域のよさ、地域の方の生き様や心の温かさに触れることを通して、学校や子供たちが、いかに地域に支えられてきたのかを実感します。

本年度末をもって本校は休校となり、4月より高野小学校と統合します。子供たちには、地域の方のおかげで自分たちの成長があったことへの感謝の気持ちを忘れず、この地域や日中上野小学校を「心のふるさと」とし、そして、ここで学んだことを心の支えとして、将来にわたって、たくましく歩んでくれることを願っています。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

平成31年2月13日

※ 各校の詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

滑川市立北加積小学校

地域住民・公民館・PTA
と連携して進める農業・食育
体験学習



富山市立四方小学校

H30四方プロジェクト
・ふるさとを盛り上げよう！
プロジェクト
・笑顔あふれるふれあい花壇
づくりプロジェクト



射水市立放生津小学校

ふるさとを知り、ふるさと
を愛し、ふるさに生きる
はとっ子の育成



砺波市立出町小学校

地域との連携を生かした教育の推進
ー 伝統文化「出町子供歌舞伎」
の学びを通してー



氷見市立瀬浦小学校

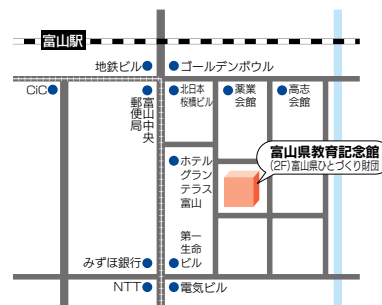
ふるさと再発見
ー 地域の宝 蛇が島 石動山
を学ぶー



あ・と・が・き

平成が幕をとじようとしています。この30年で、世界規模で環境や国際情勢等が大きく変化したと言えます。新しい年号とともに良い未来を期待したいものです。

さて、92号ができあがりました。ご多忙の中、館報の執筆に携わってくださった先生方、ありがとうございました。



平成31年度の展示計画

- ◆特別展「絵日記でつづった学童集団疎開」
- ◆第10回「児童・生徒によるものづくり展」
- ◆第17回「さんすうワールド展」
- ◆第16回「子どもの目、自然不思議発見写真展」
- ◆第35回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第37回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
- ◆第50回「富山県造形教育作品展」
- ◆第15回「アイデアロボット展」
- ◆第30回「富山県中学校美術展」
- ◆第13回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

4月10日(水)～5月26日(日)
6月5日(水)～7月7日(日)
7月17日(水)～8月25日(日)
9月4日(水)～10月6日(日)
10月11日(金)～10月20日(日)
10月25日(金)～11月10日(日)
11月16日(土)～12月1日(日)
12月7日(土)～1月12日(日)
1月24日(金)～2月9日(日)
2月19日(水)～3月22日(日)

富山駅
近く

会議室を一般の方に**安価**でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。
詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
<http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください！

